

## 『源氏物語の女性たち』

瀬戸内寂聴著／NHK ライブラリー

## 『源氏に愛された女たち』

渡辺淳一著／集英社

## 『男だって子育て』

広岡守穂著／岩波新書

日本が誇る世界初の長編小説『源氏物語』は1008年に創作されて2008年11月に一千年を迎えます。高校・高専で古典が得意ではなかった本学の学生諸君にとっては紫式部の原文は苦手と思いますので、図書館にある谷崎潤一郎・与謝野晶子・瀬戸内寂聴・田辺聖子さんたちが翻訳された美しい現代語版を是非一読される事をお薦めします。源氏物語はよく知られています様に、絶世の貴公子光源氏の愛と栄華の物語（第1帖「桐壺」～第41帖「幻」）、そしてその息子の薫をめぐる匂宮と宇治3姉妹の愛の物語（第42帖「匂の宮」～第54帖「夢の浮橋」）の全54帖にわたる大長編ロマンですが、その全編を通じて作者が描いているのは、人生と男女の愛です。そしてそれは現代においてもそのまま通じるほどに普遍性を持った課題なのです。そのため諸大家達の現代語訳も、その人その人なりの解釈が見事に織込まれており、読み比べてみると面白いかと思います。

ただ今回ご紹介する三冊の本は、源氏物語の現代語訳そのものではなく、それに関連して現在の男女の恋愛と人としての生き方を考える上で大変参考になると思われる本です。

源氏物語の解説書はこれまで恐らく数十カ国語で数千冊が出版されていると思いますが、特に豊かな恋愛経験に基づき、透徹した人生観をにじませるものとして尼僧であられる瀬戸内寂聴さんの『源氏物語の女性たち』と、医師であられる渡辺淳一さんの『源氏に愛された女たち』を薦めたいと考えます。推薦者のくどくどしい説明よりは、これらの本からの抜書きを以下に掲げますので皆さんは自分で考えてみてください。

「源氏には常に仰ぎ見るような、自分より優れた女性が必要だった。p 62」「相手の女に恥をかかせるようなことはせず、どの女にも公平にやさしくして、女から怨みをかうようなことをしてはならない。p 65」「女が恋物語を好きなのは、成就

---

した恋のハッピーエンドに拍手するのではなく、恋に心が傷つき血を流す哀しさと美しさ感動するからです。遊びの浮気や肉欲だけの情事では心は傷つきません。本当の恋をしたとたん、人は喜びと同時に悲哀を味わい苦悩が始まるのです。p 89]「自分のように相当な身分の者が長年たった一人の妻を守って、どんなに世間の嗤い者になっていることか。そんな融通のきかない野暮な男に大事にされても自慢にもならないだろう。たくさんの夫の女の中で一番特別に扱われてこそ女冥利というものだろうに。p 170]」

一瀬戸内寂聴『源氏物語の女性たち』NHKライブラリー 1997

「近代文明がこれだけ進んだというのに、男と女は相変わらずくだらぬ痴話喧嘩を繰り返し、少しの進歩もしていない。p 13]「男女のことはあくまでも知識ではなく、体験や実感をどうしてしか知りえない。p 16]「結婚は就職のようなもので、本当に好きな人との恋愛はその後でおこなう。p 55]「拒否することで存在を示す。それは確かに一時的には有効だが、所詮、生身の男と女がぶつかりあう、恋の王道における勝者とはなりえない。p 93]「性においてはことさらに構えたり、気取ることなど不要である。p 104]「セックスは思想や社会性などとは関係なく、互いの肌と肌が触れあう、極めて人間的な行為だと言うことである。p 105]「総ての恋は、最後にはメモリーとしてだけ残る。p 147]」

一渡辺淳一『源氏に愛された女たち』集英社 1999

前述しましたが、源氏物語の人生観や恋愛観は現代に生きる人々にも強く影響を与えています。特にセクハラ・DV・離婚の増加等、女性の社会進出につれて様々な社会問題が明らかになって来ていますが、このような厳しい時代だからこそ、もう一度日本人が千年をかけて追求して来た、まさに男と女性がともに手を携えて幸せになろうとする「男女共同参画社会」を真剣に考えてみる必要があるのではないのでしょうか？その意味で、広岡守穂『男だって子育て』は、これから恋愛・結婚・子育てをする諸君達にとって考える材料を与えてくれる名著と思います。以下に若干の抜書きを示しますので、興味を持たれたら是非図書館で借りて読んでみられるとよいと考えます。

---

「恋愛や結婚と仕事や自活する能力とは別のものである。本当に愛する異性が見つめられるかはだれにも分からない。学生時代に将来の人生の伴侶と恋に落ちたからといって、だれにも非難することはできない。愛し合っているもの同志が同居したり結婚したりしようとするのは自然なことである。p 4」「家事はたしかにむくわれることのない仕事である。家事はむしろ奉仕である。家族の生活をささえる無償の営みである。そしてそういう行為はなによりも自分自身の心をなごやかにし、豊かにする。しかし奉仕が人の心にうるおいを与えるのは、あくまでもそれが自発的に行われる時にだけである。p 9」「性差別はなぜ許されないか。それは性を理由にして「自己実現」の機会を奪ってはならないからだ。p 81」「管理や強制は責任意識が芽生えるのを妨げるだけだ。自由には責任が伴う。いや責任ある人間に成長するためには、まず自由でなければならぬ。責任意識は自尊心の産物である。相手から自由を取り上げておいて自尊心をもてといても無理である。p 163」「家事、老父母との団らん、子育て、重荷どころか、そこには尽きぬ喜びがある。だから人間にはそのすべてを享受する権利がある。p 191」

— 広岡守穂『男だって子育て』岩波新書 1990

## 執筆者紹介

### 福本 一郎

生物系教授。医師。専門領域は、医用生体工学、臨床工学、人間工学、プライマリケア。

---

【書名】 著者名(翻訳者名) 出版社または文庫・シリーズ名 出版年 税込価格  
『源氏物語の女性たち』瀬戸内寂聴著 NHKライブラリー 1997年 品切・絶版  
『源氏に愛された女たち』渡辺淳一著 集英社文庫 2002年 540円  
『男だって子育て』広岡守穂著 岩波新書 1990年 品切・絶版

[ブックガイド目次へ](#)